

巻 頭 言

研究年報発行にあたって

第21代自衛隊札幌病院長

小林 秀 紀

研究年報を当該翌年度に出せる態勢にしたいと考えていましたが関係諸官の努力により今年度平成17年度には平成15年度研究年報、平成16年度研究年報の2冊を出すことができ、本来の姿に戻ることが出来ました。

平成17年1月に行われたインドネシア国際緊急医療援助隊の活動報告を適時に載せる事が出来ました。現在パキスタンへ航空輸送任務の国際緊急援助隊が第5旅団担任で派遣されていますが、衛生は自隊救護として医官1名、衛生救護2名、臨床検査1名が派遣されています。国際貢献活動が常態化している自衛隊ではますます衛生の出番が多くなると思います。これらの時宜を得た報告掲載は海外で任務する衛生の知的財産となると思います。

平成18年度からの自衛隊札幌病院の保険医療機関化による一般開放及び本年度より開始された研修医受け入れで地域の医療機関、保健所との連携がより密接になると思われます。久保田1佐の総説で現状と展望をつかめると思います。本院で行われている無痛の内痔核手術について佐野2佐の論文にはその手技、成績などが述べられています。この新しい手術が札幌病院から全国の自衛隊病院へ広まるきっかけになるでしょう。症例報告として3論文が掲載されています。一症例一症例真摯に追求して行けば症例の少ないといわれる自衛隊病院でも相当な勉強になると思われます。北部防衛衛生学会は毎年自衛隊札幌病院担任で開催され、北部方面衛生各部隊の多大な研究が発表されています。その中で札幌病院看護部から健康管理に関する報告を2編の掲載しました。将来健康管理業務が病院の任務化されると思われますので今後もこのような研究が重要となりましよう。最後に院内医官研究会、防衛衛生学会、部外各種学会、雑誌での発表目録をつけました。

平成18年度より統合幕僚監部が創設され、いよいよ陸海空3自衛隊の統合運用が始まります。北方の部隊衛生も変わっていくことと思われます。これに主体的に、柔軟に対応して行かねばなりません。そして平成24年度に新病院開院を予定している自衛隊札幌病院も医療のより高品質化を押し進めていきます。自衛隊札幌病院研究年報がその力になりまた広く医療関係者諸氏の教育・研究の一助になれば幸いと存じます。